



かけはし

連合長崎大東・壱岐・対馬
地域協議会
大村市西三城町9-1 勤労者センター内
TEL 0957-48-6045
発行責任者：川本良美
2022年7月20日 第20号

2022 平和行動 沖縄～広島～長崎～根室

被爆77年 語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で、核兵器廃絶と恒久平和を実現しよう

今年も「連合平和ナガサキ集会」をはじめとした各種平和行動が取り組まれます。「核兵器禁止条約」発効後、2年目の平和行動となります。今年は感染症対策を行い、中規模集会で開催されます。

連合2022 平和ナガサキ集会 8月8日(月)15:30～17:30

場所 長崎県立総合体育館 開催規模 1600人

県外からの参加者は約1000人、県内の構成組織及び各地協からの参加600人体制となります。

連合大東・壱岐・対馬地協からの参加は大東地区36名、壱岐ブロック2名、対馬ブロック2名の40名での参加を予定しています。

平和4行動について

- ① 「平和行動 in 沖縄」 地協幹事、山口裕之さん(JP 労組)に参加いただきました。 6月23日～25日
- ② 「平和行動 in 広島」 地協事務局長 川本(連合長崎ユニオン)が参加予定です。 8月4日～6日
- ③ 「平和行動 in 根室」 は、長崎地協・五島地協からの参加となり今回は大東・壱岐・対馬地協からの参加はありません。

連合は、「安心して暮らし、働き、労働運動に携わることのできる社会」の実現に向け、1989年の結成以来、平和運動に積極的に取り組み、毎年6月～9月に行う「平和4行動」をはじめ、労働組合やさまざまな団体・機関と連携・協力し合い、平和運動に取り組んでいます。昨年に引き続き本年もコロナ禍での開催の判断を求められましたが、連合平和4行動において、全国の仲間の思いを現地に結集させる意味は大きく、コロナ禍にあっても可能な限り現地参加を追求する必要があるとの方針のもと、「平和4行動」は現地開催を基本とし、例年の半分程度の規模で開催されます。



(昨年の集会写真)

2022 連合平和行動 in ナガサキ関連行事

- ① 「平和の泉」清掃
連合長崎の平和ボランティア行動として、例年8月の平和集会の前に「平和の泉」清掃活動を実施しています。核禁会議(現在のKAKKIN)長崎県民会議が実施していた清掃活動を1999年から、連合長崎として引継ぎ、特に女性・青年組合員を中心に実施しています。7月23日(土)午前9時から実施。
- ② 万灯作成・万灯流し
市民参加型の平和運動を継承していくために、これまで「万灯流し」を取り組んでいる原爆殉難者慰霊奉賛会・城山連合自治会等と連携をはかり、1999年から連合長崎として協力・参加・参画していました。また、「万灯作成」については、次世代への継承・親子のふれあいを目的とし、組合員の家族もご参加いただき開催しています。本年は、集合しての「万灯作成」はとりやめ、各構成組織で作成し、「万灯流し」当日に持参していただくことにしました。また、「万灯流し」は例年のように「万灯」を川に流すことなく、川淵に置くだけとすることになりました。(コロナ対策のため)
実施日：8月9日(火)午後7時より。



被爆77年 連合2022 平和ナガサキ集会次第(案)

開会挨拶・黙祷・主催者代表あいさつ(連合)・来賓挨拶(長崎県知事、長崎市長)・海外来賓ビデオメッセージ・共催、後援団体紹介・被爆者の訴え・講演・若者からメッセージ(ナガサキ・ユース代表団、高校生平和大使)・平和アピール・ピースフラッグリレー・フィナーレ「For the peace of world」・閉会

第26回参議院選挙の取り組み大変お疲れ様でした。

当選には及びませんでしたが、各構成組織・各組合員皆様の献身的な取り組みに感謝いたします。

連合長崎選挙対策会議(2022年6月4日)を受け、地協幹事会で提起・確認し、具体的行動を進めました。取り組みについては、大東地区・壱岐ブロック・対馬ブロックにおいて構成組織代表者会議を開催し、非自民の闘いを展開し第26回参議院選挙に勝利することを目指しました。

各地区選対で企画した、決起集会・個人演説会等に多くの組合員が結集し、最後まで勝利に向けた闘いを展開しました。

各構成組織においては、組合員とその家族に対し、選挙区「白川あゆみ」と「比例区候補者」への「投票行動」の徹底と電話等でのフォロー活動を展開。組合員に対し、「わたしプラスもう一票」の展開、投票日当日の棄権防止、押し出し行動を展開しました。

また、「投票に行こう」プラカードを持ってアピール行動を展開しました。

選挙総括は地協でも行いますが、連合長崎として各構成組織に選挙総括を8月中までをお願いさせていただきますので、各組合員の皆様の選挙に対する声の反映をお願いいたします。

選挙結果について

公示日:6月22日(水) 投票日:7月10日(日)

- ・有権者数 1,107,592人
- ・投票率 48.72%
- ・得票数

当選	261,554	山本 啓介	47	自新
▽	152,473	白川 鮎美	42	立新
	53,715	山田 真美	50	維新
	26,281	安江 綾子	45	共新
	21,363	尾方 綾子	47	諸新
	6,969	大熊 和人	52	N新



比例代表選挙の取り組み

構成組織擁立候補者全員の必勝をめざす比例代表選挙においては、立憲民主党・国民民主党それぞれが政党票の獲得に努める一方、連合は個人名票の確実な積み上げが必須とし取り組みました。

構成組織が推薦する予定候補者9人全員の必勝を期すためにも、連合長崎構成組織の全組織がいずれかの候補者を支援することとし取り組みました。

結果として9名中、8名の当選を勝ち取りました。

比例の選挙結果(第26回参議院選挙連合推薦候補者)

石橋みちひろ	情報労連	立憲民主党	現職2期	当選
鬼木 まこと	自治労	立憲民主党	新人	当選
しば 慎一	JP 労組	立憲民主党	新人	当選
村田 享子	基幹労連	立憲民主党	新人	当選
古賀 ちかげ	日教組	立憲民主党	新人	当選
川合 孝典	UA ゼンセン	国民民主党	現職2期	当選
浜口 誠	自動車総連	国民民主党	現職1期	当選
竹詰 仁	電力総連	国民民主党	新人	当選
矢田 わか子	電機連合	国民民主党	現職1期	

アジア・アフリカ支援米事業「田植え」報告

対馬ブロックでは、対馬地区労福協と共同で、アジア・アフリカ支援米事業に取り組んでおり、田植えは3年ぶりの実施となりました。

この日は好天に恵まれ、42名（うち子ども14名）の参加者は、協力いただいている農事組合の皆さんから指導を受け、親子で楽しく田植えをする姿や走り回り泥だらけになる姿がとても印象的でした。

参加者からは「楽しみにしていました」「秋の稲刈りも参加します」の声や「この支援活動に今後も協力したい」など、組合員のご家族からも事業に賛同いただくなど、とても嬉しい限りです。

本事業は、東南アジアの孤児院や県内の子ども食堂への支援の他に、昨年からつなぐBANK つしま（事務局：対馬市社会福祉協議会）と連携し、貧困等により支援を必要とする市内の子育て世帯にも支援米を届ける活動を開始しました。今後も本事業を通じて、家族相互の交流と組合員のご家族に組合の活動などを知っていただく機会を創出するとともに、支援の輪を広げていきたいと考えています。

と き 2022年6月12日（日）9：30～12：00 ところ 対馬市巖原町小茂田（支援米田）



実績写真



※大東地区における田植えの実施については支援田提供者の方と協議の結果、新型コロナウイルス感染者数の増加に伴い、大勢での作業を見送りました。（支援田提供者の方にお願しました。）

※秋の収穫、稲刈りについては多くの組合員と家族の参加のもと実施したいと考えています。

労働者福祉協議会ってなに？ — 労福協とは —

各地区労福協の定期総会時期を迎えています。連合地域協議会の活動とある意味連動していますが、労福協は地協とは別の組織として、労働者福祉の向上に向けて取り組んでいる組織です。

【労働者福祉協議会の歴史】

1945年8月15日、第2次世界大戦が終了し、戦後、労働組合・生協がいち早く誕生するわけですが食糧危機と生活物資が不足する中、みんなで集めようではないか、調達しようではないかという機運が高まりました。そこで、労働団体と生協が力を合わせて1949年労働者用物資対策中央連絡協議会を立ち上げました。労福協運動のはじまりです。

当時、「総評」・「同盟」・「中立労連」・「新産別」という名で、代表的な4つの労働団体がありましたが、4つの労働団体は、それぞれ労働団体の名称が違うように、社会や世界観の捉え方、労働運動のスタイル、運動の考え方も違っており、「本籍」も「現住所」も違っていましたから、それぞれの運動のあり方も違っていたわけです。しかし、「福祉の充実と生活向上」のためには、組織の枠を超え、イデオロギーの違いをも超えて力を合わせました。このことから「福祉はひとつ」と今日まで語り継がれるようになりました。

すなわち、違いはあっても、「人々の生活が向上し幸せになる」ためには、団体の結束を強め、各種の行動を連携していくことが重要と確認され労福協が誕生しました。

労働組合にとっての中心的な取り組みとしては、経済闘争・政治闘争など、そのエリアを担うこととなりますが、〈労福協〉は、このコアの部分を取り巻く広い環境、労働運動の周辺の部分に当たる運動が中心となります。生活にまつわる問題では、食の問題、生活保護、日常生活、地域の問題、直近では、深刻さを増す貧困と格差、奨学金問題、消費者行政、多重債務問題など、労働組合運動の周りの部分を担っているのが〈労福協〉の運動です。労働運動の視点で考えると、時として政治的イデオロギーなどによって分裂・分立が起こります。しかし、労働組合の色は違っても、「組織の枠を超えて、全労働者の視点に立つて福祉の充実と生活向上を目指す」という目標は同一です。そこで、設立にあたっては、めざすべき一点で統一をし、結集を図ることを明確な路線として打ち出しました。このことは、まさしく日本の労働者福祉運動にとって画期的な合意でした。この「福祉はひとつ」の創業の精神は、今日に至るまで継承されています。

各地区労福協活動

連合長崎大東・壱岐・対馬地域協議会は、大東地協と壱岐地協と対馬地協が統合し10周年を迎えます。地協再編は、地域に根ざしたローカルセンターの確立をめざすこととされ、連合長崎の地域協議会を5つの地協(5地協6ブロック)に統合する代わりに、事務局長の専従制など、体制と運動を強化することを目的に地協再編は行われましたが、各地区労福協はその運動の目的から、地協再編とは別に今まで通り、各地区労福協として存続し活動を続けています。

大東地区労福協活動内容

機関会議として、幹事会を開催し文化・研修・スポーツ活動への参加。
ライフプランセミナーの企画、アジア・アフリカ支援米活動、メーデー時のフードドライブ活動。
使用済み切手、書損ハガキの回収等を行っています。

壱岐地区労福協活動内容

機関会議として、幹事会を開催し文化・研修・スポーツ活動への参加。
ふらば～るバレーボール大会・島内バスツアー・県労福協主催行事への参加。

対馬地区労福協活動内容

機関会議として、幹事会を開催し文化・研修・スポーツ活動への参加。
豆餡のみかん狩り・清掃ボランティア活動・支援米活動。
対馬市内において、貧困等により支援を必要とする子育て世帯があることを知り、その支援活動をしている「つなぐBANKつしま」と連携し、対馬の将来を担う子ども達(子育て世帯)のためにできる新たな取り組みをされています。
対馬ブロックが取り組むアジア・アフリカ支援米の一部(300kgのうち100kg)と、対馬地区労福協から60kg、計160kgをつなぐBANKつしまに寄付されています。

